就任のご挨拶

この度、平野典和病院長の後任として令和５年４月より富山労災病院第１０代病院長に就任した角谷直孝です。

当院は旧労働省の管轄である労働福祉事業団傘下の１病院として黒部、有峰の電源開発工事に伴う労働災害に対処するため設立された病院です。

現在は、厚生労働省の外郭団体である独立行政法人労働者健康安全機構傘下の病院として、北陸で唯一のアスベストの診断、治療に対処するアスベスト疾患センターを有するとともに、いわゆる５疾病のうち精神疾患を除いた４疾病と５事業のうちの救急医療を担っております。

さらに、国の政策医療である治療、就労両立支援については、国の指定に先駆けて、すべての疾患に対する治療、就労両立支援を当機構の重点政策として取り組んできました。

私は金沢大学出身で、2011 年４月に外科部長として当院に赴任して参りました。以来 12 年間、臨床面では消化器外科専門医として消化器癌の手術や抗癌剤治療、急性腹症などの手術に取り組む一方、地域医療連携室長として地域の診療所、病院の先生方との連携の旗振り役を努め、当院の理念である『働く人々・地域の皆さんに信頼され、愛される病院を目指します』を実現するため日々取り組んで参りました。

2016 年 11 月には念願であった新病院での診療が始まり、素晴らしい環境で仕事ができることに感銘を受け、改めて地域医療を守ることの使命を感じました。新病院は最新の施設に加え、医療機器も魚津市の御支援などにより最先端の機器を備えることができ、以前にも増して病院機能を充実させて魚津市唯一の公的病院として、魚津市民病院的な立ち位置を確立できたと思っております。

しかしながら、当院が新病院での診療を開始した前後から医療を取り巻く環境は大きく様変わりしつつありました。巷でも話題となったいわゆる 2025 年問題がその一つです。富山県の地域医療構想の検討が県内の２次医療圏を中心に始まりました。団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年に向けて、これまでの医療ニーズが大きく変化するであろうことを視野に、医療提供体制の方向転換を計画するものでした。当院が属する新川医療圏でもこの構想に従い計画が策定され、当院では独自の判断で 37 床の急性期病床の休床と障害者病棟を閉鎖し、回復期の病床である地域包括ケア病棟を導入しました。

さらに、2020 年に始まったコロナパンデミックでは、増え続けるコロナ感染者の入院治療に対応するため、一時的に地域包括ケア病棟を休止してコロナ専用病棟の運用を開始しました。未知の病気との戦いは想像を絶するものでしたが、我々は発熱外来や救急外来での発熱患者の対応、コロナ感染者の入院の必要性を評価する外来など、内科医師だけでなくすべての診療科の医師と共に、看護師、コメディカルが一丸となって取り組んできました。

その一方、この現象は当院だけのものではないのですが、外来、入院とも患者数の減少が常態化しております。今後、当地域では急速に若年人口の減少、高齢化が進み、10 年以内に高齢者人口も減少局面に入ると予測されています。

このような状況を踏まえ、今後、早急にウイズコロナ下での診療体制の確立に向けて対策を講じなければなりません。また、医師の高齢化、大学から派遣される医師数の減少により、今後これまでと同等の医療（特に救急医療）を提供できるのか、不安は尽きません。しかし、良質で安全な医療を地域の皆さんに提供するというミッションには、今後も全力で挑み続けてゆく所存です。 私病院長は元より、今後も職員一丸となって全力を尽くす覚悟でございます。地域の皆様には引き続き、富山労災病院への御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和５年４月１日

第１０代富山労災病院長

角 谷 直 孝

最新の院長挨拶はこちらから